

2019年4月1日

2019年機械設計と技術史国際会議 要項（改定）

2019年機械設計と技術史国際会議 実行委員会

(1) 会議の内容

研究発表会は機械設計と技術史の2部門とし、さらに京都大学及び関西大学の教員との学術交流会を行う。

主催：日本技術史教育学会、北京航空航天大学、北京建築大学

後援：関西大学

協賛：日本機械学会 技術と社会部門

日本科学史学会

日本メカニズムアーツ研究会

(株)アルトナー

(2) 組織

日本側の大会委員長：日本技術史教育学会 会長 牛山泉

日本側の実行委員長：日本技術史教育学会 関西支部長 渡部紘一

(3) 開催時期

2019年9月9日（月）～12日（木）

(4) 研究発表会開催場所

関西大学千里山キャンパス

学術交流会開催場所

京都大学吉田キャンパス

関西大学千里山キャンパス

(5) 開催趣旨

日中国際会議は、千葉工業大学の江藤元大先生と北京航空航天大学の郭可謙先生の強い人脈によって、1993年の「機械要素に関する日中国際会議」から始まり、現在の名称になってから2017年で10回目になった。2017年日中国際会議において、下間先生が次回の国際会議を関西で開催することの夢を語られたところ、中国側から日本での開催を歓迎するという表明があった。国際交流の潮流の中で、中国から多くの研究者を招いて学術交流を深め、日本、中国がそれぞれどのような研究をしているかを知ることは重要なことである。そこで、日本、中国の研究者による機械設計と技術史分野の研究発表を行い、さらに京都大学と関西大学において機械系教員が行った先端技術に関する研究動向の紹介を基に意見交換を行うものである。

(6) 会議の日程

9月9日（月）

午前（9：00～12：30）

開会式

基調講演（日中1人ずつ各1時間、通訳付き）

記念撮影

昼食（12：30～13：20）

午後（13：30～17：07）：2部門に分かれて研究発表（7発表）

- ・発表時間は1発表27分（母国語での発表：15分、要約の通訳：7分、質疑5分）と移行時間3分する。
- ・中国側の研究発表数と日本側の研究発表数を共に20以下にし、全体数を40以下にする。

夜：夕食会

9月10日（火）

午前（9：00～：12：07）：2部門に分かれて研究発表（6発表）

昼食（12：07～13：00）

午後（13：10～16：52）：2部門に分かれて研究発表（7発表）

夜：夕食会

9月11日（水）

午前（10：00～：12：00）

京都大学の機械系の教官と学術交流

場所：京都大学吉田キャンパス

担当：京都大学の塩路昌宏名誉教授、石山拓二教授

交流内容：最新の熱エネルギー変換などの先端技術の研究動向の紹介及び現行のカリキュラムの紹介を基に、それらについて意見交換を行う。

午後（13：00～16：00）

京都大学博物館及び構内の研究施設の見学

9月12日（木）

午前（9：30～：12：00）

関西大学の機械系の教員と学術交流

場所：関西大学千里山キャンパス

担当：関西大学の倉田純一准教授、呂 仁国准教授

交流内容：最新のトライボロジーなどの先端技術の研究動向の紹介及び現行のカリキュラムの紹介を基に、それらについて意見交換を行う。

午後（13：00～16：00）

関西大学博物館及び実験室の見学

(7) 登録費（Registration Fee）

日本と中国の参加費は同額とする。

登録費は35,000円とし、関西大学職員は30,000円とする。

大学院生および同伴者は25,000円とする。

登録費には論文集1冊、研究発表会中の昼食費、夕食会費を含む。移動の交通費とホテルの宿泊費は含まない。

11日（水）と12日（木）でかかる移動費用等は中国側の負担とする。

(8) 通訳

通訳は、呂 仁国准教授（関西大学）、高峰教授（西日本工業大学）、亀谷 勝氏（元 光洋精工）をお願いする。

日本側の3名では不足するので、中国側からも通訳2名（陳靖遠先生と他1名）をお願いする。